

生活



## (7) 生活

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 実際に地域の人と話をしたり、地域の施設を利用したり、地域の自然に触れたりするなどの直接関わる活動や体験を行うための工夫 (6) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	どきどきわくわく あたらしい せいかつ 上 あしたへジャンプ 新しい 生活 下	2 東 書

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 生活科における主体的・対話的で深い学びの過程を「学びを深める」コーナーに例示して、具体物を使った振り返り活動を通して実現する深い学びの例や、児童が思いや願いを実現していく過程で、他の児童と対話しながら試行錯誤する様子、伝え合いを通して新たな気づきが生まれる様子など、深い学びの具体的な姿が表現されている。〔例〕「ふゆをたのしもう」（上P104）等
- 巻末の「かつどう べんりてちょう」で見つける・比べる・たとえる・試す・見通す・工夫するなどの思考を促す学習活動が豊富に示されており、学び方が身につくよう工夫されている。〔例〕（上P115～122）（下P107～128）等
- 教師の言葉かけや環境構成・板書などの例がさし絵や吹き出しで示され、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善を図ることができるよう工夫されている。「がっこうだいすき」〔例〕（上P17、P21）等「どきどきわくわくまちたんけん」（下P26）等
- 活動を振り返ったり、気づいたことを交流したりする場面が多く取り入れられ、児童の言語能力が育まれるよう工夫されている。〔例〕「がっこうだいすき」（上P20～21）等「ぐんぐんそだてわたしの野さい」（下P14～15）
- 学びが深まる観察の仕方などが児童の文章で掲載され、多様な方法で表現したり考えたりできるよう工夫されている。〔例〕「きれいにさいてね」（上P34～35）
- 具体的な活動や体験の中で、タブレット端末を使って記録や観察をしたり、撮影した画像を大きく映したりするなど、ICT機器の有効な活用例が随所に掲載されている。〔例〕「いきものとなかよし」（上P60）、「どきどきわくわくまちたんけん」（下P32）等
- 適切にICT機器が活用できるよう、正しい使い方をまとめた「じょうほうききをつかおう」が掲載されている。〔例〕（下P128）
- WEB上に関連するコンテンツがある箇所には「Dマーク」が付けられ、保護者と一緒に閲覧することで、メディアリテラシーを含めたICT機器の使い方が身につくよう工夫されている。〔例〕（上表紙裏、P17、P25）等（下表紙裏、P27、P37）等
- 育成を目指す3つの資質、能力（知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう人間性等）を吹き出しやイラストで具体的に示し、この学習で何ができるようになるかイメージすることができるよう工夫されている。〔例〕「がっこうだいすき」（上P18～19）等
- 自分で学習や生活を振り返る自己評価や、他の児童とお互いのよさを認め合う相互評価の場面が設けられている。〔例〕「もうすぐ2ねんせい」（上P112～113）「あしたへジャンプ」（下P96～97）等
- 活動を振り返り、気づきを多様な方法で表現する学習活動が、発達の段階や特性に応じて上巻下巻で適切に掲載されている。〔例〕「きれいにさいてね」（上P36～37）「つながる広がるわたしの生活」（下P81～89）等
- 気づいたことを整理し、表現する方法を例示した「まとめよう つたえよう」が下巻末に設けられている。〔例〕（下P126～127）
- 教科書では3つの災害（自然災害・交通災害・人的災害）への対応を掲載したり、保護者と連携した児童の安全指導を例示したりするなど、児童が安全に生活できる力を身につけられるよう配慮されている。〔例〕「がっこうだいすき」（上P24～25）「どきどきわくわくま

ちたんけん」(下P27)等

- 身近な人々や社会及び自然を自分との関わりで捉えられるよう児童が身近な人々、社会及び自然と関わる姿が写真やさし絵で多様に示されている。〔例〕「なつがやってきた」(上P40～52)「もっとなかよしまちたんけん」(下P71～80)等
- 保護者に対して動くおもちゃの材料を集める際の注意を伝えるメッセージを掲載し、家庭との連携を促すことができるよう配慮されている。〔例〕「うごくうごくわたしのおもちゃ」(下P56)
- 見慣れた「たね」が、生命の源であることに気づくきっかけとなるように、知的好奇心を刺激する資料が豊富に掲載されている。〔例〕「ぐんぐんそだてわたしの野さい」(下P21)
- 児童の活動を限定しないよう配慮し、栽培方法や飼育方法、制作方法などの資料が豊富に掲載されている。〔例〕「うごくうごくわたしのおもちゃ」(下P56)
- 学習で身につく習慣や技能をまとめた「かつどう べんりてちょう」を掲載し、活動に応じて活用する中で、学習をすすめるうえで必要な習慣や技能が身につくよう工夫されている。〔例〕(上P115～122)(下P107～128)
- 道徳教育の指導が適切に行えるよう紙面右端の「やくそく」などの資料が充実している。〔例〕「がっこうだいすき」(上P17)等
- 紙面右端に他教科の学習成果を生かすことが効果的な活動例を掲載し、各学校のカリキュラムマネジメントの参考となるよう他教科等で身につけた資質・能力が具体的に示されている。〔例〕「どきどきわくわくまちたんけん」(下P31)「もっと よくうごく おもちゃにしよう」(下P53)等

## 2 使用上の便宜

- 正しい文字の形を保ちながら、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントが使用されている。
- 低学年児童の読みやすさに配慮し、大きな文字を使用するとともに、文節で分かち書きされている。
- 国語科の指導や児童の発達に配慮し、上巻のはじめはひらがなのみ、夏季休業日以降に学習する内容からはカタカナが使用されている。下巻では、第2学年までの配当漢字にすべてふりがなをつけ、すべての児童が読めるように表記・表現されている。
- 楽しくめぐりながら植物の成長順序を捉えることができる変型判ページや、取り外してそのまま屋外での活動に携行できる実物大の動植物図鑑「ぼけっとずかん」などが設けられている。
- 軽量用紙を使用し、ランドセルや机の収納性にも配慮されたA4サイズの紙面が採用されている。
- 学習の流れを示したホワイトボードをさし絵に描き、落ち着いて学習に取り組める工夫を例示する等の、ユニバーサルデザインのヒントが掲載されている。〔例〕(上P52)
- 紙面全体を落ち着いた色合いで統一したり、見せたい部分が浮き立つようなデザインを取り入れたりする等、紙面のユニバーサルデザインにも配慮されている。
- 写真やさし絵で登場する児童や地域の人、家の人的人数や役割などは、性別による偏りが無いよう配慮されている。また、多様な人々との触れあいに関心がもてるよう、幼児や高齢者、障害がある児童、外国の人などが、写真やさし絵で随所に掲載されている。〔例〕(上P19、P43～44、P90)(下P43、P47、P89)等
- 学校探検を中心とした生活科の主体的な活動の中にある、他教科などへの「学びの芽」の例をまとめたページが掲載されており、児童が各教科の学習のイメージをもち円滑に幼児期の教育と小学校教育を接続できるよう工夫されている。〔例〕(上P10～11)

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	たのしいせいかつ 上 なかよし たのしいせいかつ 下 はっけん	4 大日本

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 体験活動と表現活動が繰り返されるよう、発達段階に応じて伝え合い交流する場面を設定し、気づきを共有化し、気づきの質を高め、さらに次の活動への意欲へとつなげるような流れが工夫されている。〔例〕「あきとなかよし」（上P66～67）「自分のはっけん」（下P94～95）等
- 単元の導入は見開きのダイナミックな写真で構成され、児童の興味・関心を引き出し、児童の思いや願いをもとに主体的な活動が始まるよう工夫されている。〔例〕「生きものはっけん」（下P28～29）「わたしの町はっけん」（下P50～51）等
- 深い学びへ導くため、多様な表現活動が例示され、話形を示して子ども自身の言葉を引き出すよう工夫されている。また、伝え合い、交流する場面を授業の中に適切に位置づけ、目的意識をもって学習できるようさし絵や写真が工夫されている。〔例〕「みんななかよし」（上P14）「春はっけん」（下P26）等
- 「せいかつことば」で児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力の育成、表現活動の充実を図るよう工夫されている。〔例〕「町のすてきをはっぴょうしよう」（下P66～69）等
- 「はなしかためいじん」「ききかためいじん」として対話する上で重要なポイントを分かりやすく示したり発表する時の話形を示したりすることで、発表交流活動において児童の言語能力が育まれるよう配慮されている。〔例〕「自分のはっけん」（下P94～95）等
- 「きらきらことば」を設け、友だちとの交流を深めるための言葉が紹介されている。〔例〕「みんななかよし」（上P7）「春はっけん」（下P7）等
- タブレット端末を使って活動中に記録を撮る、拡大して観察する、振り返る場面や発表時に電子黒板を使用するなど、生活科の活動をより深めるためにICT機器を活用する場面が適切に例示されている。〔例〕「春はっけん」（下P26～27）等
- 活動を行う際のルートや時間などが表記され、児童が見通しが持ちやすいよう工夫されている。〔例〕「わたしの町はっけん」（下P54）等
- 活動を振り返る際には、学習経過がわかるよう写真を時系列に例示するなど配慮されている。〔例〕「ふゆとなかよし」（上P96～97）等
- 単元と単元とのつなぎでは、活動後の振り返りから、児童の思いや願いをもとに次の活動へとつながる流れを意識して紙面が工夫されている。〔例〕「ふゆとなかよし」（上P81）等
- 学校のことを家庭で報告する場面を適宜設け、家庭との連携を図ることができるよう配慮されている。〔例〕「みんななかよし」（上P4～5）「生きものはっけん」（下P44～45）等
- 家族の笑顔を見つけることをきっかけに、家族の温かさや家庭における自分の役割に自然と気づくことができるような流れが工夫されている。〔例〕「ふゆとなかよし」（上P90～95）
- 町探検など地域に出かける活動を通して、地域の人々との関わりが深まり、自分の住む町への愛着が育まれるよう工夫されている。〔例〕「わたしの町はっけん」（下P64～65）等
- ものを作る活動では、試したり工夫したりする活動が生まれるように、材料や道具のコーナーを作り、児童の試行錯誤が生まれるような教室環境の工夫が掲載されている。〔例〕「あきとなかよし」（上P70～71）等
- 町探検した場所に休日に行ってみるなど、生活科の活動がその後の自分の生活に生かされていく場面を取り上げ、学習内容を実生活に関連づけるよう工夫されている。〔例〕「わた

しの町はっけん」(下P70～71)等

- 夏休みなど長期の休みの前には、地域や家庭で実践してみたいことを児童なりに考え、実行できるヒントとなるよう紙面構成が工夫されている。〔例〕「いきものはっけん」(下P46～47)
- 生活科の活動や体験が、他教科の学習へ広がり発展すると同時に、国語、社会、算数、音楽、図画工作、道徳など他教科領域の学習成果が生活科の活動に生きるよう相互の関連について配慮されている。〔例〕「なつとなかよし」(上P36～37)等
- 本の読み聞かせなども取り入れ、図書室や図書館を活用した学習のあり方についても掲載されている。〔例〕「つくる楽しさはっけん」(下P79)等
- 他教科との関連が深いところには、関連がわかるマークが入れられている。〔例〕(上P16～17)
- 生活科の経験が第3学年以降の学習につながるよう、楽しく学べて何度も作り直せる、工夫の余地が大きいおもちゃ作りで児童の試行錯誤を促したり、通学路に焦点をあてて見つけた場所をつなぐ表現方法をしったりして、発達段階に沿った空間認識の力を育めるよう工夫されている。〔例〕「つくる楽しさはっけん」(下P76)「春はっけん」(下P23)

## 2 使用上の便宜

- 入学当初は、生活科を中心としたスタートカリキュラムに配慮したページが設けられ、学校生活に見通しをもつことで不安を解消し、遊びの中で仲間づくりを進める等、安心できる環境づくりの流れが工夫されている。また、モジュールでのカリキュラム編成が可能となるよう配慮されている。「しょうがっこうせいかつはじまるよ」〔例〕(上口絵P1～7)
- 各見開き内に風船のマークで具体的に課題が提示され、児童が学習の目標や課題を意識しやすいよう工夫されている。
- サイズの違うページや透明シートを使用した仕掛けのあるページ、モノクロの表現でイメージを膨らませるページを設けるなど、児童が日頃親しんでいる絵本のよさを取り入れた構成により、ページをきっかけとして児童の活動が具体的活動につながるよう工夫されている。〔例〕(上巻頭、P62～63)(下P30～31、P113)
- 表紙には丈夫で汚れにくいコーティングが施され、長期の使用に耐えうる造本になっている。名前を書く欄はにじみにくく書きやすいよう工夫されている。
- 製本は奥まで開くようアジロ綴じになっており、写真や絵などをよく見ることができる。
- 巻末に「がくしゅうどうぐばこ」が設けられており、草花、生き物、地図、工作、気象、昔から伝わる遊び、乗り物の乗り方、調べ方やまとめ方、発表の仕方などが提示されており、児童の興味・関心を高め、主体的な活動につながるよう工夫されている。また、情報収集及び伝達の手段がまとめて掲載され、児童が活動を進める際、相手に合わせて手段を選択できるよう配慮されている。
- 読みやすいユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、小学校低学年の教科であることから教科書体も取り入れられている。
- 紙面のレイアウトや使用されている文字、配色、読みやすい位置での改行など、特別な支援が必要な児童だけではなく、どの児童にとっても見やすくわかりやすいよう配慮されている。
- 外国の人や障がいのある人、幼児、高齢者など多様な人々と関わる活動場面を随所に取り入れ、発達段階に応じた人権意識を育めるよう配慮されている。またイラストや写真などにおいては男女比が考慮されるとともに、性別により服装や役割に固定観念を持つことがないよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 下	1 1 学 図

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童同士の対話のヒントになるように、個と個の対話からグループでの対話へ発展していく等、児童の発達段階に応じた対話の場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりするよう構成されている。〔例〕「わたしのあさがお」（上P26～27）等
- 各大単元冒頭の扉ページには、大きな写真のページを設けることで、児童の期待感や意欲を引き出し、これから行う活動についての意欲を喚起するよう配慮されている。上巻では、幼保での体験や児童の日常体験、下巻では、1年での体験や児童の日常経験をイラストで示すことにより対話を促している。
- 児童の主体的な活動を支援する「ものしりノート」や「ちゃれんじずかん」、図鑑等のページが充実しており、児童が自分で活動を広げていけるよう配慮されている。
- 児童の自発的な言葉をもとにしたリード文と、活動の楽しさと熱気を伝える写真やイラスト、親しみやすい4人のキャラクターと適切な吹き出し等が、自分でもやってみたいという児童の主体的な活動を引き出すよう工夫されている。〔例〕「まちたんけん」（下P18～21）等
- 活動を通して得られた児童の気づきや思いを、カード、作文、手紙、劇化等の様々な方法で表現するよう配慮されている。
- 観察カードの書き方を例示し、表現力の基礎や、科学的見方や考え方の基礎を育むよう配慮されている。また、児童が表現したものをもとに、身近な人々と伝え合う活動がなされるよう配慮されている。〔例〕「わたしのあさがお」（上P24～25）「わたしたちの野さいばたけ」（下P40～41）等
- 記録例は、児童の発達段階が考慮されたものとなっている。第1学年4～5月の記録例では、簡単な言葉による記述、6月以降はより長い文章を書きこめる形式で示されている。〔例〕「わたしのあさがお」（上P19、P27、P33）
- 情報の収集場面や発信場面においては、人に聞いたり本で調べたりする以外に、郵便、電話、インターネット等の情報手段が例示され、情報教育の素地となるよう配慮されている。授業内でのデジタルカメラやタブレット端末の使用、電子黒板を用いた発表などICT機器の活用場面を取り上げている。
- ICT機器の取り扱いやマナーについて巻末（下P117）に掲載しており、安全な使い方が身につくよう配慮されている。
- 第1学年でのアサガオの栽培を経て、経験を活かす、振り返るといった学びの見通しのもと、野菜を育てる活動を取り上げ、育てる野菜の下調べ、畑の土作り、育てる畑にも着目できるよう工夫されている。〔例〕「わたしたちの野さいばたけ」（下P36～49）
- 野菜を収穫した喜びとともに、その成功体験や成長した自分を振り返る場面を設け、秋以降の野菜を育てる活動に自信がもてるよう工夫されている。〔例〕「わたしたちの野さいばたけ」（下P52～55）
- 各大単元の左上に単元を大きく4つの段階（どきどき→いきいき→ふむふむ→にこにこ）に区分し、学習している現在の時点がどの段階にあるのか、一目でわかるよう工夫されている。
- 家での仕事や仕事をしている人について知り、自分の生活について考えるよう取り上げている。さらに仕事に挑戦することで、家の人に感謝の気持ちをもつと同時に、自分でできる



ことを続けようとする意欲がもてるよう配慮されている。〔例〕「ありがとうがいっぱい」(上P96～105)

- 自分たちの町の様子やそこで働く人々を知り、それをまとめ発表していく中で、自分たちの町を愛する気持ちを育むよう配慮されている。〔例〕「まちたんけん」(下P2～35)
- 児童の興味を引き出しやすいよう身近な自然素材や教具が取り上げられている。〔例〕「あきをたのしもう」(上P64～69)
- 試行錯誤を重ねる場面を設定し、いくつもの学習活動を行いながら、児童が自分の願いや思いに沿ったおもちゃを作成、工夫していけるよう構成されている。〔例〕「作ってあそぼう うごくおもちゃ」(下P80～85)
- 雨水や水たまり、水や石、どろ、かげ遊びといった遊びの中で、中学年以降の理科への素地を養うよう配慮されている。〔例〕「あそびにいこうよ」(上P48～49、P52～53、P76～79)
- 身の回りの地域を空間的に考えられるよう、校区の地図を使い、中学年以降の社会科へのつながりに配慮されている。〔例〕「まちたんけん」(下P4～6、P20～21)
- 話す、聞く、書くといった国語的要素を重要視し、手紙や作文を作成する場面が多く設定されている。また巻末資料「学び方図かん」ではそれらがまとめて示されている。
- 校内の学校図書館を見学したり、利用のしかたを聞いたりする活動や、町の図書館を使った活動を載せて、図書を使って読んだり調べたりする場面が取り上げられており、図書館教育への配慮がされている。〔例〕「がっこうたんけん」(上P5、P11)「まちたんけん」(下P26～27)等

## 2 使用上の便宜

- 生活科の学習目標達成のため、内容を「探検」「遊び」「飼育」「栽培」「家族・成長」の5つの活動領域に整理し、それぞれを大単元として構成している。「探検単元」では、第1学年では学校、第2学年では町と、活動の場が広がるよう配慮されている。「飼育単元」では、第1学年では動物に触れたり身近な生きものに親しんだりすることを中心にし、第2学年では自分の決めた生きものと継続的に関わる構成となっている。
- 児童の興味・関心を引き出すため教科書のサイズが大判化(A4変型判)されており、軽量化にも配慮されている。製本も低学年の児童の使用を考慮し、開きやすくなっている。表紙は、厚い用紙が使われ、汚れや濡れに強いコーティングが施されている。
- 下巻では、第1学年、第2学年の配当漢字が使用され、第2学年の配当漢字全てにルビが付けられている。
- 下巻巻末の「学び方図かん」では、インターネットの使い方を掲載し、利用する場合は大人と一緒に調べるなどの配慮事項が記載されている。
- ユニバーサルデザインに配慮し、過度な色使いをせず、記号やマーク表示がおさえられ、シンプルで見やすい紙面構成がされている。
- それぞれの単元の活動を通して、障がいのある人、高齢者、身近な幼児など、多様な人々の関わりを重視して取り扱っている。
- 教科書の登場人物については男女の比率に偏りがないよう配慮され、女性の社会進出や男性の家事分担などにも配慮されている。
- イラストに海外で行われている行事を入れたり、さし絵・写真の中に外国人を登場させたりするなど、国際理解の視点が配慮されている。
- 学校の行き帰りの安全や、学習活動における安全への配慮が十分されている。「いかのおすし」を掲載し、犯罪から自分の身を守るための視点についてふれられ、安全・防災教育に配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	せいかつ 上 みんな なかよし せいかつ 下 なかよし ひろがれ	17 教 出

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 単元ごとに「ひんと」コラムが設けられ、見つける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの学習活動が繰り返し提示され、児童の一つの気づきが関連づけられた気づきへと質的に高められるような構成となっている。〔例〕「たねを まこう」（上P32～41）「めざせ野さい作り名人」（下P13、P15）等
- 児童たちの会話から活動内容をイメージさせたり、好奇心をくすぐる内容を導入部分で取り入れたりして、学習意欲を高めるよう配慮されている。〔例〕「きせつと なかよし はる なつ」（上P46～47）「作って ためして」（下P84～85）等
- 他の児童や身近な人々との対話によって、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動が繰り返し設定されている。〔例〕「きせつと なかよし あき」（上P84～85）「めざせ 生きもの はかせ」（下P52～53）等
- 付箋を使って整理する活動や思考ツールを使ってまとめる活動などが例示され、児童が考えたことや気づいたことを整理する学習活動ができるよう配慮されている。〔例〕「えがおの ひみつ たんけんたい」（下P62～63）等
- 小単元ごとに自己評価欄を設けたり、言葉、絵、動作などさまざまな方法の表現活動を例示したりして、気づきの質を高めることができるよう工夫されている。〔例〕「なかよくなるうね 小さな ともだち」（上P68）等
- 具体的な活動や体験を通して学んだことを言葉などで伝え合う活動をしたり、多くのことを教えてくれた地域の人たちに感謝の気持ちを伝えたりして、交流できるよう配慮されている。「体けんをつたえ合おう」（下P70）等
- 学習資料の動画にリンクする二次元コードを設けている。タブレット端末などで読み取り、随時活用できるよう配慮されている。〔例〕「きれいにさいてね わたしのはな」（上P34）「道ぐを つかおう」（下P128～P129）等
- 手紙、電話、ファクシミリの使用、パソコン（インターネット）、タブレットなどの、ICT機器を使用した活動が掲載されている。〔例〕「がっこうのことを つたえたいな」（下P9）等
- 児童の気になっていることを書き込むスペースを設け学びの記録を残したり、自信や意欲のバロメーターをはしごの絵に表し自己評価したりするなど工夫されている。〔例〕「なにを感じたかな」（上P20～21）等
- 児童が、体験活動から学んだこと、感じたことを伝え合い、気づいていることに気づくことに重点をおき、振り返り方が定着するように、しっかり考えることを促すページが設けられている。〔例〕「なにをかんだかな」（下P40～41）等
- 目次ページに保護者へのメッセージを掲載するとともに、生活科の学習のねらいが明示されている。〔例〕（上P6、下 表紙裏）
- 学習内容を家庭で話したり、生かしたりできるよう、単元末に家の人と交流するコラムが設けられている。〔例〕「わくわくどきどき しょうがっこう」（上P27）「めざせ やさい作り名人」（下P19）等
- 地域の慣習や行事に目を向ける活動や資料が豊富に掲載されている。〔例〕「なつやすみを げんきにすごそう」（上P61）「わたしの町の じまん」（下P42～43）等

- さまざまな仕事をしている人々と関わる活動を通して、仕事の意義に気づき、働く人へのあこがれをもてるよう配慮されている。〔例〕「えがおのひみつ たんけんたい」（下P60～81）
- 児童たちが作ってみたいと思えるようなおもちゃの作り方などを掲載し、児童の自発的な学習を促す工夫がされている。〔例〕「おもちゃの作り方図鑑」（下P98～99）等
- 児童の興味・関心を引きつけ、「もっと〇〇したい。」と考へ創意工夫できるようなヒントを与え、児童の活動を意味づけたり、価値づけたりする教師の関わり方を例示し、児童の答えを引き出す工夫がされている。〔例〕「パワーアップ大作せん」（下P92～93）等
- 「小単元名」や「活動の観点」、育成したい資質・能力を示した「さいころのアイコン（きづく、じぶんでできる、かんがえる、つたえる、ちょうせんする、じしんをもつ）」がセットで示され、学習のねらいや見通しが明確にわかるよう工夫されている。〔例〕「わくわくどきどき しょうがっこう」（上P6、P16）「あしたへ つなぐ 自分たんけん」（下P106、P109、P110、P112、P114）等
- 巻末に学びの引き出しを増やす「学びのポケット」を設け、生活科の学習に必要な習慣や技能を、児童たちが自ら繰り返し活用できるようにまとめられている。〔例〕「学びのポケット」（上P127～136）（下P117～136）
- 他教科で学んだことを生活科の表現活動に取り入れたり、生活科で学んだことを他教科に生かしたりできるよう工夫されている。〔例〕「何をかんじたかな」（下P18）等
- 「はってん」で理科、社会科とのつながりが明示され、3年生の学習を見に行く活動が設定されているなど、接続に配慮された構成となっている。〔例〕（下P51）等

## 2 使用上の便宜

- 季節に合わせ、樹木や草花、町の様子が変化していくような単元の配列となっている。
- 2年間の成長や発達に応じて、上巻から下巻へと、児童の活動や気づきが広がっていくよう適切に配列されている。
- 児童の知的好奇心を高める写真やさし絵、活動や体験への意欲を引き出す言葉の表記が豊富である。
- 図解や動植物などのイラストは、正確でわかりやすい表現がなされている。
- 高齢者、外国人、幼児、障がいのある人などと一緒に活動をおこなったり、交流をしたりする活動が設定されていて、同じ学校や、地域でともに生活をしていることに気づき、適切な行動ができるよう配慮されている。〔例〕「あきをみつけにいこう」（上 P74～75）「まちが大すきたんけんたい」（下 P44）
- 児童にとって、判読しやすいようユニバーサルデザイン（配色やレイアウト、表現方法、文字）が使用されている。
- 随所に板書例があり、思考の流れが見えるよう工夫されている。〔例〕「たからものであそぼう」（上 P87）「えがおのひみつ たんけんたい」（下 P63）
- 入学当初の児童にあった「スタートカリキュラム」が提案され、幼児期における遊びを通じた総合的な学びが、各教科へスムーズに移行するよう配慮され、楽しく少しずつ教科学習へつながるよう工夫されている。
- 上巻では、2学期（後期）以降、第1学年配当漢字（ルビ付き）と片仮名で、下巻では第2学年配当漢字（ルビ付）で表記されていて、国語科との関連や児童の発達段階に応じた適切な扱いとなっている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ	26 信 教

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 活動を指示したり、単に例示したりするのではなく、吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで示し、学びの深まりや広がりにつながる活動になるよう配慮されている。
- 活動における感動体験、試す・確かめるなどの探究活動、自らの体験を見返し味わう表現活動を多様に示し、より深い学びにつながるよう児童同士の学び合いや情報交換の場ができるよう配慮されている。〔例〕「ひとつぶのたねから」（上P68～73）、「すすめ すいすい号」（下P52～57）等
- 活動や学びの中で生まれてくる児童同士の気づきや発見を伝え合い、より深い学びや活動につながるよう、伝え合う活動がさし絵や写真の中に表されている。〔例〕「うれしいな いちねんせい」（上P4～25）等
- 児童が日々書き留める観察カードや日記、手紙などを要所に示し、日頃から記録に残して振り返ったり、相手に思いを伝えたりすることの意義が表されている。〔例〕「いっぱい みのって」（下P38、P43～44）等
- 満月の日をタブレット端末で調べる様子をさし絵で掲載し、ICT機器の活用への導入に配慮されている。〔例〕「おつきみ」（上P81）
- 地域のお店をデジカメで撮影したり、撮影したものを電子黒板で映したり、情報教育の活用について配慮されている。〔例〕「わたしたちがすむ町」（下P18～19）
- 教科書の内容と関連する動植物の図鑑のWEBページへアクセスできるURL・二次元コードが巻頭に設けられている。
- 各単元での振り返りの場面を大事にし、児童が自分や友だちの生活・地域との関わり方などを通して自分の成長に気づくことができるよう配慮されている。
- 地域に出かけ、地域の人と関わる中で伝えることの楽しさや心の交流ができたよろこびを味わい、相互の交流活動のなかで働く人や仕事への夢・憧れを抱くことができるよう、単元が構成されている。〔例〕「みんなで いこう」（下P66～73）
- 自分の幼いころの成長を支えてくれた家族や回りの人々との関わり、学校での2年間を通して、互いの成長を振り返る場面を大切に、自分の成長を実感できるよう配慮されている。〔例〕「すごいね ぼく わたし」（下P100～104）
- 家族の中での役割や家族が互いに支え合っていることに気づけるよう、また学校でそれを話題にして気づきを深めていけるよう、学校での話し合いを家庭の場で確かめたり、学校で学んだことを自ら取り組んだりすることを促すなど、家族と学校との関わりが示されている。〔例〕「わたしとかぞく」（上P98～101）
- いつもの遊び場や散歩道を取り扱う単元を設定し、四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう配慮されている。〔例〕「はるとなかよし」（上P26～33）「まぶしいなつ」（上P56～67）「あきがいっぱい」（上P84～97）「ふゆもきらきら」（上P102～113）
- 第1学年の児童が、友だちと遊んだり登下校時に見つけたりしたものから、生き物や植物に興味をもち、学校や学校の周りを探検していくという構成になっており、児童の興味・関心の広がり合った内容となるよう工夫されている。〔例〕「うれしいな いちねんせい」（上P4～25）
- 児童の知的好奇心を刺激し、興味・関心から思い思いのおもちゃづくりを試行錯誤し、不

思議さやおもしろさを実感できるよう配慮されている。〔例〕「はしれ はしれ」（下P82～87）

- 小1プロブレムや入学期の児童の発達の特性を考慮し、遊びや活動を重視して、総合的に授業を展開できるよう工夫されている。〔例〕「うれしいな いちねんせい」（上P4～25）
- 聞き取りやインタビューとその方法の立案、地域調べ等、他教科との関連や第3学年以降の教科との関連、総合的な学習の時間との関連等も配慮されている。〔例〕「みんなで行こう」（下P66～73）
- 五節句などの伝統行事を紹介するだけでなく、童謡も紹介され、児童の興味・関心に合わせ、音楽科の学習とも関連した活動ができるよう配慮されている。〔例〕（上P34～35、P52～53、P80～81、P114～115、P120～121）
- 地域ならではの人、もの、こととの関わりやふれあい、交流を通して、さまざまな学びを深めていく単元展開になるよう配慮されている。〔例〕「わたしたちの まち」（下P16～17）
- 動物飼育に関わっては、学級や学校の実態、地域の実情に応じて選択肢がもてるよう複数の生き物（ヤギ・ウサギ・カナヘビ等）の飼育活動の様子を提示し、飼育活動のまとめとして、その生き物に関わる様々な学習の収束や別れも大切にするよう配慮されている。〔例〕「いきものといっしょ①②③④」（上P44～51、P74～79）（下P28～31、P88～91）
- 他教科や第3学年以降の教科との関連、情報機器（デジタルカメラなど）の導入などに配慮されている。〔例〕「わたしたちの まち」（下P19）

## 2 使用上の便宜

- 教科書のサイズがA B判で紙面にゆとりがある紙面構成となっている。
- 縦書き、右綴じで国語科の学習との関連を図るとともに、見やすい鮮明な印刷となっている。
- 単元展開をリードする2人の主人公を登場させ、その家族や友だち・指導者の姿も描くことにより、教科書に物語性をもたせ、単元名・小単元名ともに児童の言葉で表されている。
- たんごのせつく、たなばた、おつきみ、せつぶん、ひなまつりなどを時系列に配列し、季節の変化と関わりのある地域の行事にこめられた人々の願いや思いを調べる活動を大事にし、周りの人々と関わりながら暮らしをつくっていけるよう構成されている。切り絵で行事の様子を表したり、美しい自然の写真を使った紙面を掲載したり、児童の学習意欲を高める工夫がされている。
- 第2学年で大豆の栽培の単元を設定し、継続的な栽培活動を通して、地域の人とのつながりや友だちとの協力など、さまざまな活動を体験できるよう工夫されている。「生まれかわるだいず」では、食育やキャリア教育へ発展できるよう工夫されている。
- 動植物との継続的な関わりを通して、様々な生き物との別れや命のドラマを体験できるよう工夫されている。
- 巻頭「ご家庭のみなさんへ」では、生活科での学習が児童の生活そのものを創っていける活動になるよう生活科でのねらいが説明されている。
- 全単元にわたってさし絵で個々の児童の思いや実態に応じて選択、あるいは発展する学習の展開が図れるよう配慮されている。
- 学校生活や行き帰りの安全に留意するため、標識や表示・安全を守ってくれる人や場所を示しており、安全・防犯教育に配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	せいかつ 上 まいにち あたらしい せいかつ 下 だいすき みつけた	38 光 村

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の学びへの意欲を高め、思考力を育てるとともに、学びを確かな力にするため、各単元は、「ホップ」（導入）、「ステップ」（展開）、「ジャンプ」（振り返り）の3段階で構成されている。
- 児童が対象に興味を抱くとともに、活動の見通しをもち、試行錯誤しながら主体的に体験活動と表現活動を繰り返し、最後に学びを振り返ることができるよう構成されている。
- 児童同士で協働したり、教師や地域の人たちと対話したりする活動が、随所に位置づけられている。〔例〕「ぐんぐん そだて おいしい やさい」（下P26～27）等
- 体験活動と表現活動の相互作用の中で、個々に気づいたり、気づきを関連づけたり、視点を変えて捉えたりすることを意図した、深い学びの具体例が随所に位置づけられている。〔例〕「もっと もっと まちたんけん」（下P72～73）等
- 巻末に、体験方法と表現方法の例が示されており、学習活動中に児童が参照することで、体験活動も表現活動も豊かになり、学びの質がいっそう高められるよう工夫されている。〔例〕「ひろがる せいかつ じてん」（上P142～143）（下P102～103）等
- 対話や発表、絵、文章、観察カード、手紙、ポスター、クイズ、動作化・劇化・絵地図など、児童の発達段階や活動内容に合った例が示されており、児童が目的に応じた多様な表現活動ができるよう工夫されている。〔例〕「なかよし いっぱい だいさくせん」（上P22～P23）等
- 低学年の発達段階を配慮し、学習効果が高まると想定される活動場面において、実物投影機やデジタルカメラの使用の効果がイラストなどで示されている。〔例〕「ひろがる せいかつ じてん」（上P143）等
- 対話やインタビュー、図書利用、学級内の掲示板の活用など、情報収集や発信の例を豊富に示し、手紙・電話・ファクシミリ・情報機器などの活用についても、児童の発達段階に応じて適切に示されている。〔例〕「なかよし いっぱい だいさくせん」（上P22～23）等
- 各単元の「ホップ」（導入）の場面には、学習の「見通し」を示し、学びを確かなものにするための工夫がされている。〔例〕「みんなの にこにこ 大きくせん」（上P14～15）等
- 振り返りを書いて貼るシール（何度も貼ったり剥がしたりできる）がついており、貼る位置によって自己評価を可視化できるよう工夫されている。また、巻末には一年間の学習を振り返ることができる「ジャンプ大しゅうごう」がある。〔例〕（上P145～148）（下P105～108）
- 保護者と一緒に確認しておきたい通学路の安全や、生活科での学習を日常生活の中で生かしたい例などについて、イラストや文章でわかりやすく示されている。〔例〕「なかよし いっぱい だいさくせん」（上P24～25）等
- 通学路の安全を守ってくれる人やまち探検で出会う人など、児童自身と地域の人々の関わりを深める活動が示されている。〔例〕「まちを たんけん 大はっけん」（下P10～13）等
- 地域に関わる単元では、そこで生活したり働いたりしている人々との交流に焦点を当てて取り上げ、関わった人々やその仕事ぶりに対して、児童自身が感じた親しみや憧れの気持ちを、児童の言葉や作例として示されている。〔例〕「もっと もっと まちたんけん」（下P64～77）等
- その単元で特に児童自身に考えてほしい点を「どうすれば」コーナーで示し、児童自身が、場に応じて考えられるよう工夫されている。また、思考のヒントを提示するだけでなく、「？」

のスペースを置くことで、自ら考え活動できるよう工夫されている。〔例〕「広がれ わたし」(下P88～89)等

- 写真やさし絵に吹き出しが書かれ、活動の様子が生き生きと伝わるよう工夫されている。吹き出しは、活動や気づきのヒントになるものの他に、空白の吹き出しがあり、児童が自ら言葉を考え、主体的に活動に取り組めるよう、また、気づきの質が高められるよう工夫されている。
- 児童の生活体験から単元の活動を具体的に考えられるよう工夫されている。〔例〕「ぐんぐん そだて おいしい やさい」(下P18～19)
- 二次元コードを読み取ることで、季節の資料(四季の動植物及び47都道府県の伝統行事)、交通安全、道具の使い方の資料を見ることができ、自分で学習する際に役立たせることができる。〔例〕(上P112)等
- 幼稚園・保育所等と小学校の円滑な接続を図る、スタートカリキュラムのページや、児童の安心、自信、好奇心を軸に、入学当初の活動を幼児教育や他教科等の学習との接続・関連も踏まえながら示されている。〔例〕「あたらしい いちねんせい」(上P4～13)等
- 他教科との合科的・関連的な指導のヒントを随所に示しており、特に入学当初の単元においては、他教科の学習につながるきっかけが豊富に示されている。また、国語との関連を考え、学年の始まりと、児童を次学年の活動にいざなう内容のページなどに、自分の表現につながられるようにする効果的な言葉が提示されている。
- 道徳教育との関連では、挨拶や礼儀、生命尊重やマナーを守ることなど、必要な場面で児童の道徳的な意識が自然と芽生えるよう配慮されている。〔例〕「小さな 友だち」(P36～47)等

## 2 使用上の便宜

- 上下巻ともに季節に沿って単元が構成され、かつ、目次は年間指導計画が一覧できる紙面構成になっているため、一年全体を見通して適切な指導と計画が立てることができ、また、カリキュラム・マネジメントの参考にすることもできるよう工夫されている。
- 単元は季節を追って配列しているが、活動のまとまりごとに構成しているため、指導の順序を柔軟に入れ替えることができるよう配慮されている。また、2学期制・3学期制のいずれにも対応可能である。
- 写真やさし絵が見やすいよう教科書のサイズは、A B版である。
- 児童の心を揺さぶり、活動を広げる豊富な資料が掲載されている。四季の変化を示した「きせつの おくりもの」、単元の発展的内容を示した「もっと やって みたい」のほか、巻末の「ひろがる せいかつ じてん」に安全教育の資料、体験・表現方法の資料などが収録されている。
- 見つける、比べるなどの多様な学習活動は、巻末資料「ひろがる せいかつ じてん」に一覧で示しており、児童が自ら適切な学習方法を見つけることができるよう配慮されている。
- 紙面のデザインは、配色や色調に注意をはらったり、文字と写真、写真と写真の区別が明確になるように罫線を入れたりするなどの配慮がなされている。
- 低学年児童の発達段階を考慮した平易な表記・表現で、文字も読みやすい大きさの書体が使用されている。
- 吹き出し等には、児童が親しみやすい手書き風の書体が用いられている。低学年の児童が書き写す際にも正しい字形で書くことができるよう筆順・画数・とめ・はね・はらいに配慮した字体になっている。
- 幼児や高齢者、外国の人、障がいのある人など、教科書に登場する人物に性別・人種・身体的特徴に偏りがないように配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下	6 1 啓林館

#### 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が直接体験へと向うような単元導入がなされており、導入「わくわく」、主たる活動「いきいき」、振り返り「ぐんぐん」として、単元を通して児童たちの活動が発展し、深まるよう配慮されている。〔例〕「いくぞ！がっこうたんけんたい」（上P2～3）
- 単元末に設定されている「ひろがる気持ち」コーナーでは、生活科の学習が児童の日常生活につながり、広がっていけるように、児童たちが自立し生活を豊かにしようとする態度を育てるよう配慮されている。〔例〕「あそびばにでかけよう」（上P43）「あたらしいこといっぱい」（下P9）等
- 「次はこうしたい」、「もっとこうしたい」という児童の願いや思いが、単元末の「めくり言葉」として例示され、児童の活動の連続性・広がりをもたせられるように配慮されている。〔例〕「生きもの大すき」（上P59）「みんな生きている」（下P47）等
- 活動を通して身近な人々、社会、自然と繰り返し関わっていくことができるよう配慮されている。〔例〕（上P12、P48、P76P、102）（下P36～37、P78～79）
- 実物大図鑑や書き込みができるページを設定し、児童が好奇心を高められるよう工夫されている。〔例〕「生きものにあいこころ」（上P60～61）
- 活動が繰り返し深まるよう、また学びが深まる実感を得られるよう配慮された構成となっている。〔例〕「なつとなかよし」（上P48）「とび出せ 町のたんけんたい」（下P30）等
- 国語や書写で学習したことを生かした、作文・新聞・招待状・パンフレット・ポスター等の表現物を例示し、多様な表現方法を紹介し、児童たちの言語能力を育成するための配慮がされている。〔例〕（下P105）等
- 思考と表現が一体的に行われたり繰り返されたりする低学年の特性に配慮しながら、体験活動と表現活動が繰り返されることで児童の学びの質が高まるよう設定されている。〔例〕「まちのすてき つたえたい」（下P90～91）等
- ICT機器の活用が有効な場面では、学習の助けになる動画・補充資料等の教材の二次元コードを掲載されている。〔例〕（下P13）等
- 児童の発達段階に配慮しながら、デジタルカメラ、コンピュータ、タブレット端末、電子黒板、インターネット等、ICT機器を活用する学習活動を示している。〔例〕「あそびばにでかけよう」（上P43）「大きくそだて わたしのやさい」（下P21）等
- 導入の「わくわく」では、児童の「～したい」「～しよう」という思いや願いを高め、学びの見通しをもてるよう大きな写真を提示したり、児童の興味をひきつけるような写真を多く提示したりしている。〔例〕「げんきにそだて わたしのはな」（P20～21）等
- あいさつやマナー、安全上の注意点などの基本的な生活習慣や知識及び技能は「こんなときどうしよう」などの各種コーナーで学習できるよう工夫されている。〔例〕（上P39）
- 単元末の「ぐんぐん」に「できるかな できたかな？」コーナーが設けられ、学習過程や成果を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感できるよう工夫されている。〔例〕「いくぞ がっこうたんけんたい」（上P17）「おおきくそだて わたしのやさい」（下P25）等
- 家庭との連携に配慮し、保護者の方へのメッセージが設けられている。〔例〕「あたらしいこと いっぱい」（下P8）
- 外部人材との連携（地域の人的・物的資源の活用）の例として、地域のお年寄りや働く人々



- 等生活を支える人々との交流が分かりやすく示されている。〔例〕「ひろがれ えがお」（上P96～97）「とび出せ！町のたんけんたい」（下P26～35）等
- 具体的な姿を写真やイラストで示し、児童たちが意欲的に学習できるよう配慮されている。また、「きせつだより」が設けられており、家庭や地域でも自主的に活動を発展させることができるような例が多く提示され、学校外でも児童が力をつけていけるよう工夫されている。〔例〕「なつと なかよし」（上P56～57）等
  - 季節の行事や歌を例示し、日本の文化や季節の変化を感じ取ることができるよう工夫されている。〔例〕「きせつだより 秋」（下P70～71）等
  - 気づいたことをもとに考えるための、「見つける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の多様な学習活動の例を写真や表現物・イラスト・児童のせりふ等で示し、次の学習への意欲を喚起するよう配慮されている。〔例〕「せかいでひとつ わたしのおもちゃ」（下P64～65）等
  - 国語や書写で学習したことを生かした、作文・新聞・招待状・説明文・パンフレット・ポスター・俳句等の多様な表現物が紹介され、表現の仕方について他教科との関連に配慮されている。〔例〕「まちのすてき つたえたい」（下P95）等
  - 各教科の学習で育成を目指す資質・能力との関連を工夫し、学習活動の充実を図る工夫がされている。〔例〕「生きもの 大すき」（上P64～65）「せかいとひとつ わたしのおもちゃ」（下P66～67）等

## 2 使用上の便宜

- 上巻・下巻ともに季節に沿って単元が構成され、単元が進むにつれて活動が広がり、深まっていくよう配列されている。
- 上下巻は、さし絵や写真が大きく非常に見やすいA B判であり、印刷は鮮明で見やすく、耐性がある紙質・製本となっている。また、上巻の巻頭にある「すたあと ぶっく」と、下巻の巻末にある「みらいに むかって」は、小寸ページの用紙で作られ、光沢感があり本文よりも厚い用紙が使用されている。
- 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）」を踏まえ、児童が主体的に安心して学校生活を始められるよう、上巻の巻頭に「すたあとぶっく」『がっこうだいすき あいうえお』の単元が設定され、スタートカリキュラムとして幼児教育との接続に配慮されている。
- 児童が読みやすいように文字の大小・色・字体が使い分けられている。
- 単元名、小単元名、本文中の言葉については、いずれも児童が行う活動や体験への重要な刺激となるよう位置づけられ、その構成要素の位置も原則として固定されている。
- 単元の導入「わくわく」のページには、児童と学習対象物との関わりが、よくわかるように大きな写真が掲載されている。1つの活動は、見開きを基本として構成されていて活動の内容が捉えやすいよう工夫されている。
- 巻末資料に「がくしゅうずかん」を設け、2年間の生活科の学習を通して、より重点的・弾力的な活動ができるよう配慮されている。
- 多様な児童に配慮し、学習活動の中で参考となるカード等は傾けて配置することを避け、読みやすい構成になっている。
- 防災、安全、健康、環境、伝統・文化についての資料も紹介されていて、児童の活動に役立つよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
生 活	わたしとせいかつ 上 みんな なかよし わたしとせいかつ 下 ふれあい だいすき	116 日 文

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 町の施設を板書することにつながりを見つける場面や、カードを複数掲示する場面を示して、多様な表現方法を例示したり、話し合いの場面を具体的に掲載したりすることで、児童が主体的・対話的に考え見通しをもつことができるようになっている。また、学習を振り返ることができるような場面を設定するための工夫にもなっている。〔例〕「まちたんけん1」（下P12～13）等
- 「学びのまど」（ふりかえる つなげる）では、つぼみを何かに例えたりこの先どうなるか見通したりする場面があり、考えるための技法が掲載されている。〔例〕「きれいなはなをさかせたい」（上P41）等
- ドングリや木の葉で遊ぶ場面では、試したり工夫したりする活動が自ずと生まれるよう材料コーナーや改造スペースを作って、児童が試行錯誤できるような教室環境が掲載されている。〔例〕「きせつとあそぼう あき」（上P84）等
- 振り返りカード、観察カード、手紙などの作品例を紹介し、正しい字や文章の書き方が学べるよう工夫されている。〔例〕「ぐんぐんそだてみんなの野さい」（下P31）等
- 巻末の資料「ちえとわざのたからばこ」では、気持ちの伝え方や話し方聞き方のポイントを示したり、調べたことをまとめる方法について示したりして、言語活動の充実が図られている。〔例〕「ちえとわざのたからばこ」（上P126～129、下P116～119）等
- 町たんけん でわかったことを発表する場面を示し、発表交流活動において児童の言語能力が育まれるよう配慮されている。〔例〕（上P30～31）
- デジタルカメラ、実物投影機やタブレット端末を使い、写真や絵を電子黒板で提示する場面があり、ICT機器を活用した多様なコミュニケーションの方法や活動例が示されている。〔例〕「夏休みを楽しくすごそう」（下P43）「町たんけん2」（下P77）等
- 巻末の資料「ちえとわざのたからばこ」では、電子メールの書き方や音声レコーダー、インターネットの使い方が掲載されている。「ちえとわざのたからばこ」（下P119）等
- 生き物の鳴き声、野菜づくりの動画や学習カードのデータなど、学習を進めるうえで利用できるデジタルコンテンツがある。関連ページには右上にマークが示されている。〔例〕（上P65）等
- 実際の授業の写真に掲載することで、自分もやってみたいという意欲をもったりどうなるのかと想像したりできるようにして、学習活動の見通しをもつことができるよう工夫されている。〔例〕「きせつとあそぼう あき」（上P75、P84）等
- 板書や学習カード、お礼の手紙などで学習したことを振り返る場面を示し、振り返りを通して学習の定着を図り、次にやってみたいこと（課題）を見つけられるよう配慮されている。〔例〕「まちたんけん1」（下P16～19）等
- 家庭で実践したり家族と話し合ったりする場面を設定し、実感を伴う気づきができるよう配慮されている。〔例〕（上P117）等
- 地域の「名人」や働く人の思いや願いにふれる場面を設定し、人と触れ合うことでたくさんの実感を伴う気づきができるよう工夫されている。〔例〕「まちたんけん1」（下P16～17）「ぐんぐんそだてみんなの野さい」（下P30～31）等
- 自然災害、人的な災害、交通災害の三つの観点から、スタートカリキュラム、学校たんけん、学校外へ出かける単元、巻末資料などで防災・安全に関する項目を取り上げ、安全や健

康に気をつけることを、学校・家庭・児童が共通理解できるよう配慮されている。そして、自分たちの生活の安全を守ってくれる人々の存在を知ることなど、地域の人々や様々な場所が関わっていることにも気づけるよう構成されている。〔例〕「いちねんせいになったら」(上P16~17)「ちえとわぎのたからばこ」(下P124~125)等

- 板書や観察場面を具体的に示し、児童が主体的に考え、やってみたいことや気づいたことを話し合えるよう配慮されている。〔例〕「がっこうをたんけんしよう」(上P24~25)「町たんけん1」(下P12)等
- 「ぼけっとずかん」では、季節の草花や遊びなどを示して、児童たちが自ら観察したり活動したりするヒントとなるよう工夫されている。〔例〕「きせつとあそぼう はるからなつ」(上P54~55)等
- 夏季休業日などの長期の休みの活動例や計画の立て方を写真や絵などで掲載し、学習したことを生かして、家庭でも実践することができるよう工夫されている。〔例〕「なつやすみがやってくる」(上P64~65)「夏休みを楽しくすごそう」(下P40~43)等
- 「出かけるまえにかくにんしておこう」では、「善悪の判断」「節度、節制」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」などを考える場面が示され、道徳科の内容項目を扱って、双方の学習効果を高める工夫がされている。〔例〕「きせつとあそぼう はるからなつ」(上P48)「きせつとあそぼう ふゆ」(上P102)等
- 栽培单元では上巻で草花、下巻で野菜を扱い、発達段階に合わせてより科学的な認識の基礎を養う单元構成になっている。飼育单元でも、上巻では情緒的観点を中心にし、下巻ではより科学的、探究的に扱い、命の大切さや自然の不思議さ、面白さを感じ得でき、第3学年の理科へスムーズに接続できる構成となるよう工夫されている。〔例〕(上P34~47)等
- 図画工作との関連では、各单元のまとめとして、体験を絵や立体に表す、素材を利用して作品を作り上げていくといった豊富な表現方法が紹介されている。〔例〕(下P33)等

## 2 使用上の便宜

- スタートカリキュラムにおいては、登下校から学校生活全般について、児童に気づかせたい・注意させたい内容が、具体的な写真やコメントで明示されている。〔例〕「いちねんせいになったら」(上P5~17)
- 一つの单元は基本的に、課題設定、活動、振り返りという構成になっており、見通しが立てやすいよう工夫されている。また、ゆとりをもって活動や体験ができるよう、年間を見通した継続的な栽培活動が行われるよう構成が配慮されている。
- 児童の体への負担を考え、軽い用紙を採用している。
- AB版であり、ランドセルに入る条件を満たしながら、絵本のように横に広がる紙面構成となっている。
- ページが広く開くよう製本が配慮されている。
- 植物の成長過程を楽しんで学ぶことができるようページを山折りにするしかけがされている。〔例〕「きれいなはなをさかせよう」(上P37~38)等
- 外国籍の友だちが上巻・下巻ともに設定され、日常的に交わるような場面が例示されている。
- 視覚活用に制限のある児童に対して、文字の大きさ、罫線や囲みの使い方、色づかいを工夫するなど、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。
- 特殊加工を施した実物大の点字があり、実際に触れることができるよう工夫されている。また、道路の点字ブロックや英語や韓国語表記のある看板を示し、様々な立場の人がよりよく暮らすための工夫について気づくことができるよう配慮されている。〔例〕「ちえとわぎのたからばこ」(下P134~135)